

## 不登校予防・支援のための取組チェックリスト

( 予防：1～7、支援：8～14 )

◎ できている    ○ できているが不十分    △ できていない

取組状況	取組の内容例
1	学校を回避する要因・ストレス（友だちとの関係・学力・学級の雰囲気・先生との関係等）を軽減するために、学校組織として温かい学校・学級づくりの取組を進めている。
2	児童生徒を理解する（①日常観察 ②面接 ③検査：Q-U等）取組を進め、子どもや学級の状況を共有する場を設けている。
3	不登校等の予防のために、「温かい学級づくりのためのアンケートQ-U」の結果を見立て、具体的な活用（個別対応・人間関係づくり・朝や帰りの会・日々の授業づくり）を図っている。
4	子ども一人ひとりの居場所をつくるために、安心・満足度の高い学級づくり（学校生活を送るうえでの規律づくり：ルール、ふれあいのある人間関係づくり：リレーション）を進めている。
5	教師主導一斉授業からの脱却をめざし、ルールづくりやリレーションづくりの視点を取り入れ、対話のある授業づくりを進めている。
6	人間関係づくりを進めるプログラム開発（心の冒険教育・構成的グループエンカウンター・ソーシャルスキルトレーニング・グループワークトレーニング等）に取り組んでいる。
7	毎朝の欠席管理を学校体制として行い、欠席状況に応じて担当者に報告し、すばやい対応を行っている（例：3日欠席で家庭訪問、累計欠席10日で校内支援委員会での検討）。
8	担任まかせにせず、早期発見・早期対応の観点から定期的に校内支援委員会（コーディネーション委員会）を開催し、アセスメント（見立て）と支援の方向性について、話し合っている。
9	個々のケースについては、校内支援委員会の方針をもとに、支援チームをつくり、個別支援票をもとに具体的な取組（何を目標に・いつ・誰が・どこで・何を支援するのか？）を進めている。
10	教室に登校できない児童生徒に対しては、保健室や別室等、安心できる居場所を設置し、登校を促す取組を進めている。
11	児童生徒の状況に応じて、定期的に家庭訪問（何を目的に・いつ・誰が・どのような方法で訪問するのか明確に）・保護者面接を行い、相互の信頼関係づくりに努めている。
12	学校で抱え込まず、学校外連携（市町村相談機関・教育支援センター・心の教育センター等）を進めており、様々な援助資源を活用している。
13	学校復帰をめざす過程を迎えたら、再登校のための具体的なプランを保護者の理解を得て作成している（別室登校、放課後登校、行事や好きな教科への授業参加を試みる等）。
14	再登校・安定登校に向けての対応は、教職員で共通理解を図り、学校内での居場所づくりを進めている。

作成：高知県心の教育センター